

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 看護マネジメント分野	修了年度	平成 27 年度
氏名	鈴木 洋子	指導教員 (主査)	河津 芳子

論文題目	<b>卒後2年目看護師のリアリティショック構成因子と職場環境要因に関する研究</b>
------	--

本文概要

**目的：**卒後2年目看護師のリアリティショック(以下、RS)を探り、それに影響する職場環境要因とその特徴を探ることで、支援体制を構築する資料を得ることである。

**研究方法：**質問紙調査とインタビュー調査による混合研究である。関東・関西・中京圏に勤務する2年目看護師270名に対して、RS構成因子と職場環境要因に関する質問紙を用いて量的に調査した。また、埼玉県看護協会主催の研修会に参加していた2年目看護師10名に半構造化面接を行い、業務遂行時の困難感を質的に調査した。

**結果：**2年目看護師のRS構成因子は、「先輩看護師の支援不足」「精神的負担」「身体的負担」「死にゆく患者の処置」「1人あたりの業務量負荷」「モチベーション低下」の6因子28項目となった。職場環境要因に関して、否定的な回答ほどRSを感じていた。2年目看護師を取り巻く職場環境の特徴をインタビューから抽出した結果、《役割変化》《周囲からの期待》《待遇》《研修と実践との差》《先輩看護師との関わり》《支援の欠如》の6カテゴリーが形成された。これらを統合した結果、2年目看護師を取り巻く教育体制・勤務体制・処遇がRSの起因になることが示された。

**考察：**2年目看護師のRSは、新人看護師のRSと類似する内容も含まれたが、2年目看護師に求められる役割や期待、先輩看護師からの支援の欠如などが、新人看護師時代とのギャップとなりRSを感じるのではないだろうか。また、職場環境には、先輩看護師の存在が直接的または間接的に影響しており、従来、捉えられていた新人看護師のRSとは違うRSを受けていることが示唆された。よって、先輩看護師の支援的な関わりが2年目看護師のRSに有効であると考えられる。

**結論：**2年目看護師のRSを探り、それに影響する職場環境要因とその特徴を探った結果、上述の結果に加えて、2年目看護師のRSは職場環境に起因し、先輩看護師の支援的な関わりがRSに有効であることが得られた。

**キーワード：**卒後2年目看護師, リアリティショック, 職場環境, 支援体制